

特集
2

魅力ある地域のために

よりよい社会・地域の創造に向けて

食の大切さを伝える

地元農畜産物を子どもたちへ

地元農畜産物に親しんでもらう食農教育の一環として、北見市、訓子府町、置戸町の1市2町へ地元産の玉ねぎとじゃがいもを送っています。送られた玉ねぎとじゃがいもは、食農教育パンフレット「玉ねぎちゃんとじゃがいもくん」とともに、保育園や小学校の給食用として子どもたちに届けられています。

また、JA名に「みらい」を冠したJAのつながりで、JA津軽みらい地域の子どもたちにも、じゃがいも・玉ねぎを送りました。JA津軽みらいからは、美味しいうどんが届けられ、北見地域の小学校や保育園へプレゼントされました。

安全・安心な地元食材を使った「給食のコロッケ」



原材料は全て北海道産で、添加物不使用、アレルギーを極力減らしたコロッケを開発し、地域の学校給食で提供されています。

子どもたちに安全・安心で、おいしい地域の食を味わってもらうために地元の栄養士の方や組合員の女性組織の意見を反映し、開発しています。



行政と一体となった農業振興

1市2町の首長、共済組合、普及センター、JA等で構成されている「北見地区農業振興連絡協議会」があり、農業者のための農業技術研修や担い手対策への支援、地域の方々に対して地産地消の取り組みや食育の取り組みに対する支援を地域全体で行うために協議・活動をしています。

北見地区農業振興連絡協議会

北見市・訓子府町・置戸町・オホーツク農業共済組合・JAきたみらい

担い手・地域振興・情報部会

農業・技術部会

畜産部会

農業の魅力を伝えたい

未来を担う子どもたちに第1次産業である農業の重要性や食の大切さを理解してもらい、関心を深めてもらうため、植付けから収穫、食べるまでを実際に行う栽培体験活動や親子で参加する農業体験見歩きツアーなどを開催しています。

このようなイベントを通じて、食や農業に対してより興味を持ち「将来農業をしてみたい、食に関わる仕事がしたい」と思ってもらえるように願っています。



一市二町の小学校に教材本を贈呈

私たちの生活に欠かせない「食」と「農業」、また「環境」と「農業」の密接な関係を意識してもらい、農業への理解を深めるきっかけになることを願い補助教材本を作成し、全国のJAバンクから小学校へ贈呈されています。



農村地域ならではの魅力

農家・組合員の方々のコミュニティ



農家の経営者の方、後継者の方、またそのパートナーの方などそれぞれのコミュニティがあり、積極的に活動しています。

農業技術を学ぶために視察研修や技術研修、農業情勢に対する学習会など様々な研修を行っています。また、運動会や料理教室などの行事で交流をしています。これらの活動を通して、生産者同士がつながり、農業の振興とより良い地域づくりに貢献しています。

地元住民とのつながり

～作る人と食べる人との距離が近い～

作る人（生産者）と食べる人（消費者）との距離が近く、収穫祭や地産地消祭りははじめ、いろいろなお祭りが各地域で行われています。催しには、地域の方もたくさん訪れ、大いに盛り上がるイベントとなっています。最近では、行政と一体となってハロウィンイベント等の季節のイベントにも積極的に参加しています。

また、農業者の方が小学校での農業体験を行う「出前授業」や、地元のお祭りへの参画をしています。



業務について

JAの担い手組織である青年部や女性部の部員満足度向上、主体的な活動実施に向けた支援やサポートをするため日々業務に取り組んでいます。

また、地域の方に農業のサポーターとなってもらう為、広報誌を通じた情報発信や市内小学校を中心に食農教育活動を行っています。

担当職員の一人として

私たち担い手グループ職員は、食農教育活動や事務局業務、広報活動の取材など対外的に人と接することが多い部門です。

どのような業務をするにもまずは、相手との信頼関係を築くことが第一歩であると思います。そのためには相手が何を考えていて、何を求めているのかを常に意識し、行動することが大切です。これからも、「全ては組合員のため」という奉仕精神のもと、丁寧迅速に業務に取り組んでいきます。



菊池 光祐（きくち こうすけ）
平成28年 入組
営農振興部担い手グループ
青年部・女性部事務局